新しいことを学ぶために必要な「ことばの力」と「思考力」

遊びを工夫したり、友達と話し合ったり、新しい学習に取り組んだりするためには、「問題を解決する力」が欠かせません。子どもたちは、これまでに学んだ知識を使ったり、応用したりしながら、毎日の生活や学習の中で新しいことに挑戦しています。先月に引き続き、今井むつみさんの著書を参考にしながら、「新しいことを学ぶ力」について考えてみたいと思います。

「考える力」を支える思考のコントロール



考える力には、「思考をコントロールする力（実行機能）」が大切だと言われています。思考をコントロールするためには、次のような働きが必要です。

① 必要な情報に注意を向ける。
② 複数の情報を一時的に覚えておく。
③ 不必要な情報に気を取られないようにする。

例えば、国語で新しい「動きを表す言葉（動詞）」を学ぶ場面を考えてみましょう。

注目する必要があるのは、登場人物そのものではなく、登場人物同士の「動き」や「関係」です。また、「様子を表す言葉（形容詞）」を学ぶときには、人や物の特徴や様子に目を向けなければなりません。

つまり、言葉の意味を理解するためには、「必要な情報に注意を向ける。」「注意を切り替える。」「関係のない情報を抑える。」といった力が同時に働いているのです。

「思考力」は知識だけでは育たない

もともと子どもには、「動き」や「様子」よりも「物そのもの」に注意を向けやすい傾向があります。そのため、必要な情報に注目し不必要な情報を抑える力はとても重要です。

また、思考力とは単に知識をたくさん持っていることではありません。知識を使いながら考え、推論し、問題を解決していく力のことです。問題を解決するためには、「必要な情報に注目する力（実行機能）」「必要な知識を素早く取り出す力（情報処理能力）」が欠かせません。知識は大切ですが、これらの力に支えられて初めて、推論が可能になり、自分で考えて学ぶことができるようになります。

言葉を学ぶことが思考力を育てる

子どもが新しい言葉を覚えるときには、周囲の状況や文脈の手掛かり、そして自分がすでに知っている知識を使って意味を推測しています。このような経験を繰り返すことで、必要なことに目を向け、覚えている知識の中から必要な情報を取り出し、分からないことを考えながら解決する力が少しずつ育っていきます。すると、さらに新しい言葉を学びやすくなり、語彙が増えます。そして語彙の広がりとともに、考える力もますます成長していきます。

「ことばの力」と「考える力」は、実は深くつながっています。日々の会話や読書、遊びの中で言葉に触れる経験を積み重ねることが、学びの土台を育てていくのです。



私たち大人が子どもの言葉に耳を傾け、一緒に考えたり、会話を楽しんだりすることは、子どもの学びを支える大切な機会となります。

様々な体験や言葉との出会いを大切にしていきたいです。